

~~~~~

## 雨の奥多摩ハイキングの忘れられない思い出

中川 廣子

東京都奥多摩のとある山へ登山を兼ねてきのこ探しに行ったときの忘れられない思い出です。

今は亡き相京さんと私の友人と3人で10月に山に登った時のことです。相京さんとはともに山が好きだったので、千葉の山には一緒によく出かけましたが、県外は初めてでした。この日、朝方さほどでもなかった雨がだんだんと本降りになってきましたが、雨合羽を着て栗を拾ったり、茸を探しながら登っていました。相京さんはどんどん先に行ってしまいました。私と友人は話しながらゆっくり歩いていました。すると登山道脇の林の中の、倒れ掛かった木にきのこがびっしりついているのが目に入りました。なんだろうと草をかきわけ、近づいてみてきのこを採って見てびっくり。瞬間、なんと肉厚の大きなヒラタケだろうと思いました。ひだの感じがちょっとヒラタケと違うような気もしましたが、ここは標高も高いし、栄養たっぷり、千葉でとれるヒラタケとは多少違うのだろうとしか私には考えられませんでした。ですからどう見ても食用きのこ間違いなしと思って、さすればヒラタケしか思い浮かびません。もう興奮状態で友人と2人して夢中になってビニ



左より相京さん、私の友人そして私

ール袋いっぱい採りました。私の頭の中はこの大きな肉厚のヒラタケをバターでいためると、さぞかしおいしいだろうなどの思いでいっぱい。友人に調理法とか教えながら、まさに感動と幸福の極みでした。相京さんに言うのとびっくりするだろうなど想像し、ずっと先に行っていた相京さんを、大声で呼んで戻ってきてもらいました。きのこを見せてことの顛末を話すと、相京さんはきのこを一目見るや高笑いしながら、「中川さん、これを食べると大変なことになるよ。いいかい見てて。」と、ナイフできのこの柄の部分の部分を切りました。「こ

の黒いしみがあるでしょう。これはツキヨタケの証拠だよ。」と。

前から毒きのこととして有名なツキヨタケを一度みてみたいと切望していましたが、まさか、自分が絶対食べられると確信していたきのこがそうであったとは衝撃で、初めて見るツキヨタケに複雑な思いでした。ツキヨタケを見た感動とそれから食べなくて良かったあ、相京さんと一緒に来て、教えてもらってよかったという安堵感で。

椎茸と間違われることが多いそうですが、まさに中毒例が一番多いきのこであることが実感できました。

その日は1日中、雨でしたが、ブナの大木

にたくさんはえていたヌメリツバタケモドキという白い貝殻のようなかわいいきのこを、相京さんに「これは澄まし汁に入れるとおいしいよ」と教えられ、家にもって帰ったらペシャンとなっていました。少しすまし汁にいれて食べました。この日は他にクリタケも見つけましたが、ヌメリツバタケモドキの味もクリタケのこともツキヨタケショックですっかりかすんでしまい、ほとんど覚えていません。

あれ以来、山にハイキングに行っても、ツキヨタケを見たことはありません。そしてあの雨の日の山行は相京さんとの、哀しい思い出になってしまいました。